



※資料/総理府「家計調査」、住宅金融公庫「一般個人住宅建設資金利用者調査」、日本不動産研究所「全国木造建築指数」、住宅新報社「都内住宅地価相場」、東急不動産「地価分布図」等により住宅局試算「都民の住宅事情」東京都長期計画懇談会企画報道室 1981. 10 80 p 住まいと人口移動/住まい/住環境/宅地の状況/都民の要望。

図 1 中所得者の住宅取得能力の動向

編集後記

最近1年間の本誌に掲載された論文、技術報告、寄書について、1件当たりの所要ページ数を調査したのが別表である。寄書は5件で、いずれも投稿規定(3ページ以内)を満たしている。その他の論文・技術報告計170件中の実に90%が7~8ページものである。投稿規定(8ページ以内)は結果的に厳守されているが、6ページ以下が極端に少数であるのが小生には気になる。事実をくわしく述べ、考察をしつかり行くと、あるいは機械的な分割による連報化を避けるとなると、どうしても長くなるのであろうか。講演大会分科会では鉄以外の新しい材料・プロセスを取り扱った研究をまず討論会形式でとり上げることを検討している。ただ、機械・電気・計測関係の発表は現在の講演大会でも多いのに、それが「鉄と鋼」にはよく反映されていない(10号編集後記)、という状況もある。ここで、年間1500件という講演大会発表件数に比し本誌掲載論文数がその約1割であるというのもやはり少

ないのであろう。新しい革袋ということばもある。編集委員会は決して長いことがいいことだと考えているわけではありません。会員諸兄は下のような統計をみて、「8ページ書かないと論文にはならないのだ」とはゆめゆめ思わないでいただき、簡潔少ページ論文をどしどし投稿願いたい。目標6ページ!(S.T.)

「鉄と鋼」掲載論文等ページ数 ('83.7月~'84.6月)

1論文当たりページ数	3	6	7	8	9	計
論文・技術報告・寄書件数	5	10	45	113	2	175
同上比率(%)	2.9	5.7	25.7	64.6	1.1	100

ただし、論文の制限ページ数は'82年3月1日以降受付のものについては8ページ(それ以前は10ページ)技術報告の制限ページ数は'84年4月1日以降受付のものについては8ページ(それ以前は7ページ)